

第2章

人吉海軍航空隊基地の沿革

沿革①
航空隊

庁舎居住地区

航空隊

飛行場地区

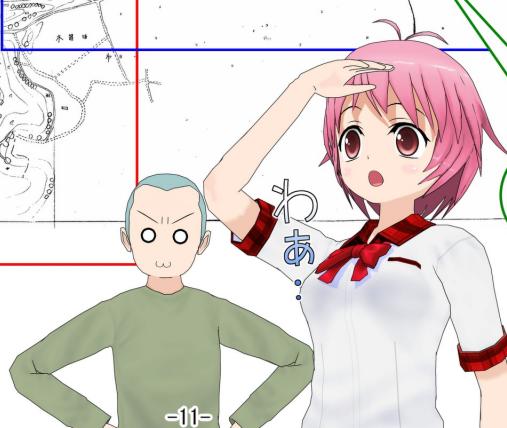
人吉海軍航空隊基地は、庁舎居住地区、飛行場地区、隧道地区の3地区から構成されています。それらを建設したのは、施設部と設営隊です。

沿革②
施設部と設営隊

隧道地区

工場と倉庫

沿革③
工場と倉庫



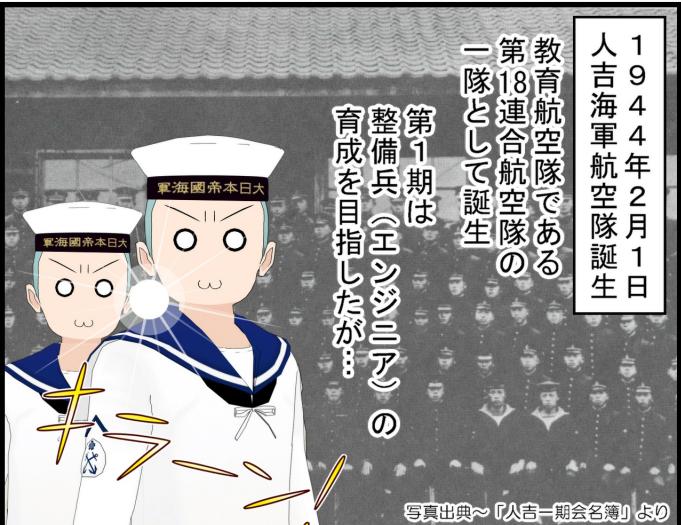
沿革①航空隊

1944年2月1日
人吉海軍航空隊誕生

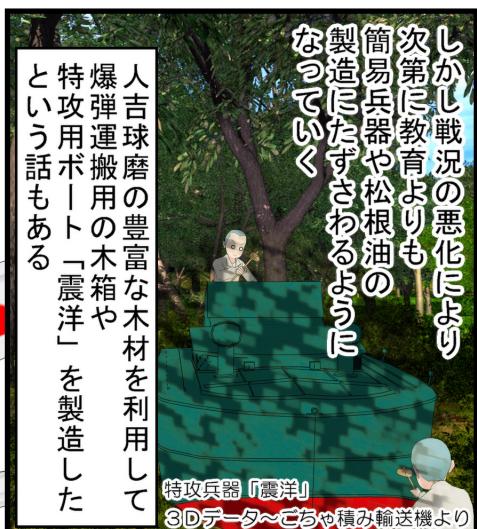
教育航空隊である
第18連合航空隊の一
隊として誕生

第1期は
整備兵（エンジニア）の
育成を目指したが…

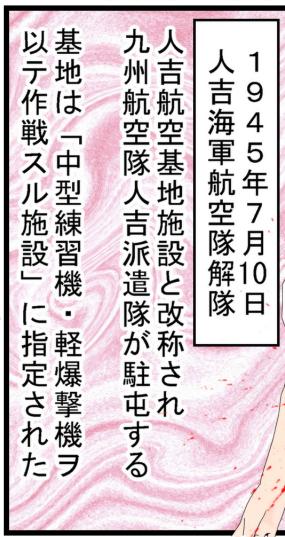
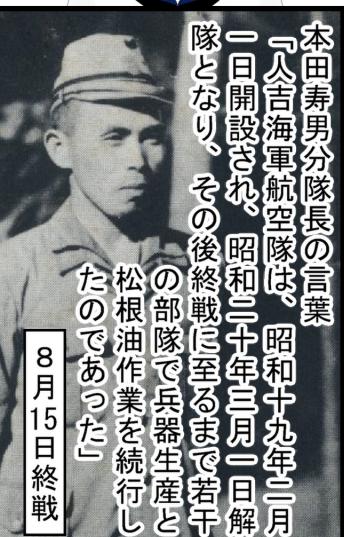
写真出典～「人吉一期会名簿」より



参考文献～『人吉海軍航空隊』（田中千春・人吉三期会）&『高原の予科練』（本田寿男・杉本興業株式会社）



参考文献～「週刊ひとよし」所収「第四回球磨川アカデミア報告その3」



8月15日終戦

教育活動よりも本土防衛協力が優先されるようになつた（事実上の解隊）

1945年3月1日
第22連合航空隊編入

本田寿男分隊長の言葉
「人吉海軍航空隊は、昭和十九年二月一日開設され、昭和三十年三月一日解隊となり、その後終戦に至るまで若干の部隊で兵器生産と松根油作業を行つたのであつた」

1945年3月と5月のアメリカ軍の空爆により基地の地上施設が破壊され地域住民にも死者が出る

人吉海軍航空隊・練習生の日常

挿絵「人吉会会報」より
写真「第8回 心のふるさと
人吉を訪ねる旅」パン(より)

参考文献「高原の予科練」(本田寿男)

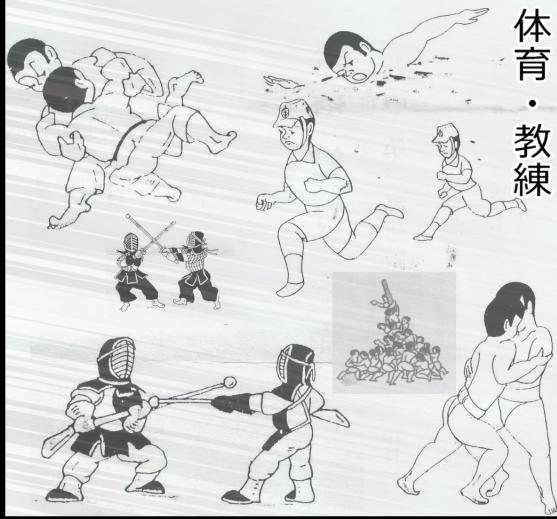
一日の日課
06:00 起床
06:30 別科
06:55 手洗い
07:00 食事
07:30 課業
09:45 休憩
10:00 課業再開
11:00 課業終了
11:40 手洗い
11:45 食事
13:00 課業
14:30 休憩
14:45 課業再開
16:00 課業終了
17:10 食事
17:30 入浴
19:30 就寝準備・掃除
20:00 巡査→就寝へ

基礎教育

発動機・作動文書など学ぶ
国語・数学・物理・航空機・化
学・軍制・図画などを学ぶ



体育・教練



実習教育



制裁・罰直



移動はすべて駆け足

行事点検
査閲試験
洗濯兎狩り
外出(俱楽部)



※俱楽部～民間協力者が用意してくれた部屋で、アットホームな雰囲気でくつろがせてもらうもの。

沿革②施設部と設営隊

戦時中の海軍の基地建設は施設本部が計画し各地の施設部が民間人を雇用・徴用して実施していた



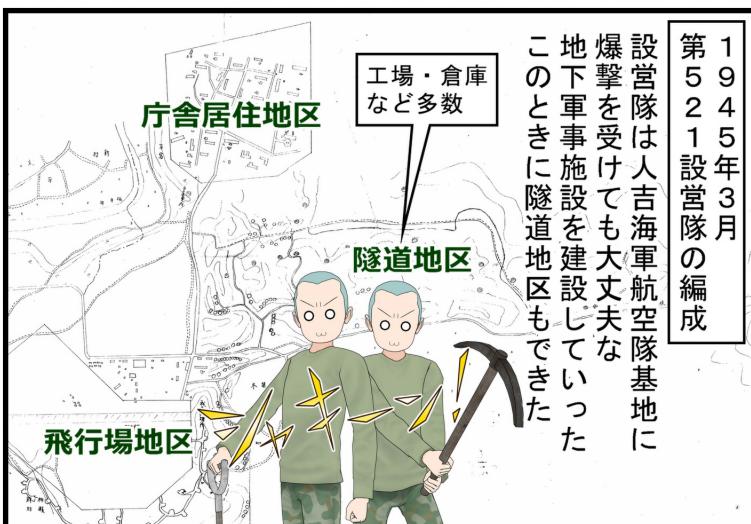
1943年11月

人吉海軍航空隊基地・建設開始

施設部・中田文治氏の言葉
「球磨川本流と・川辺川の合流する地点に“高ん原”という・丘陵をなした草原があり…風雲急をつける昭和十八年、南の空では日米彼我の航空消耗戦が続き、搭乗員の急速養成をせまられた帝國海軍は、一つには鹿児島特攻基地の中経地の要件もかねて「人吉海軍航空隊」をつくべくここに目をつけた。」
その年、晚秋も十一月われわれは海軍設営隊の先発測量隊として・この高ん原に派遣され、木上村（現・錦町）に民宿とした。この隊は・六班にわかれ・地形測量に挑み、わたくしは射撃場を担当した。時を同じくし民間の請負も入居、突貫工事で建設がはじまつた



参考文献～『人吉海軍航空隊』（田中千春・人吉三期会）&『高原の予科練』（本田寿男・杉本興行株式会社）

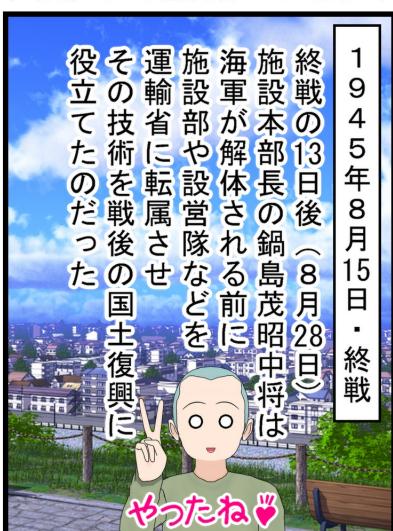


1945年3月
第521設営隊の編成

戦争末期になると
施設部は専門教育を受けた軍人で
設営隊を編成して工事を行った

人吉海軍航空隊・最後の司令
田中千春・元海軍大佐の言葉
「練習航空隊の施設というよりも、完全な計画のもとにできた航空基地に、さしあたり練習航空隊が、陣取つたとみるの
が本当だつたろう」

参考文献～アジア歴史研究センター所収「軍需品引渡目録 人吉地区」と『海軍設営隊の太平洋戦争』（佐用泰司・光人社NF文庫）



1945年8月15日・終戦

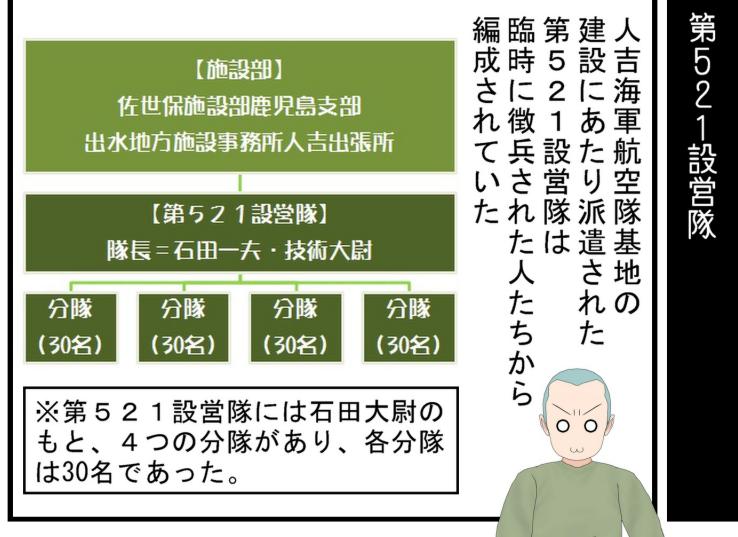
終戦の13日後（8月28日）
施設本部長の鍋島茂昭中将は
海軍が解体される前に
施設部や設営隊などを
運輸省に転属させ
その技術を戦後の国土復興に役立てたのだった



第521設営隊

・石田大尉は温厚な人物で
学徒出身ではないだろうか
・終戦後に熊本駅の近くで見かけたが
その後の消息はわからない

・分隊長・清田二等技術兵曹の話
施設部が測量や地ならしをしたあと
設営隊がそれを受け継いで作業した



写真出典～知覧特攻平和会館のサイトより



清田分隊長の言葉

問い合わせ
「地下壕に直径3セシチくらい
の穴があるのですが、それは？」
答え「削岩機で穴をあけ、そこに火
薬をつめ、爆破して掘り進めるため
のものでしょう」

問い合わせ
「天井に無数の釘が残っている
ところもあるのですが、それは？」
答え「天井をささえるためにアーチ
を固定するためのものでしよう」

勤労奉仕
：義務として国のために働くこと

1938年

国家総動員法の制定

当時の「日本」に住む人は
日本人の人も、台湾の人も、朝鮮の人も
だれもが勤労奉仕に動員されることになつたんだよ



※参考～警備隊勤務者「朝鮮半島出身の労働者も、けっこういたなあ」

勤労奉仕に参加していた
Aさん（当時・中学生）の話

※近所のBさんが言うには
明るいうちに帰っていた

湯前線の朝一番の列車で
肥後西村駅までかよつた
駅には勤労奉仕の人たち
たくさんいた

そこからは徒歩で
それぞれの現場に向かつた
最終列車に間に合う時間帯に
作業が終わつて帰宅した

飛行場の建設では
トロッコで土砂を運んだ
陸軍の現場では防空壕を掘つたが
つるはしも削れて細くなつた

二等兵



※参考～設営隊勤務者「朝鮮半島出身者は、施設部にはいたみたいだけど、設営隊にはいなかつた」

人吉海軍航空隊勤務
本田分隊長の言葉

「勤労奉仕は、昔から苦役と呼び、道路工事、
堤防工事、河川敷の整地作業、農業用水工事、
学校の工事等、地域住民の公的事業に奉仕し
たのである。

土木、河川等の工法の進歩発達に伴ない、
これら工事は専門的分野となり、苦役として
の作業は下水道清掃や、除草等の作業を奉仕
する程度となつたのである。

しかしながら、支那事変、大東亜戦争と長
期化するに従い国土は荒廃し、健康な男性は
ほとんど軍に、女子といえども勤労動員され、
老人婦女子で銃後を守ることになつたのであ
る。

それでもなお、軍支援のための苦役が、勤
労奉仕という名のもとに次から次へと課せら
れたのである。

課せられない作業も、國を護るということ
で進んで勤労奉仕参加となつたのである。
人吉航空隊にも、国防婦人会、地区自治会
よりの奉仕活動が続けられたのである。
(中略) 航空隊勤務将兵家族は率先して勤労奉仕
に参加し、警報発令下も防空壕土砂運搬、飛
行場の穴埋め作業等に従事したのであつた

その兵隊さんたちと一緒にシラミをとつていた
Aさんもシラミとりをした



山下地区と野間地区の間に施設部の事務所があつてそこに朝鮮半島出身の労働者もいたんだよ



Dさんの話では朝鮮半島出身者の子どもは力なくコトだつたからそれでイジメられたりからかわれたことなども日本語で会話していなかったんだけれどその子どもたちは学んだつて

※Dさんの話
「戦時は分散教育で、授業は学校ではなく、近所のお堂で行われた」



野間地区のDさんの家族は朝鮮半島出身の家族どもぐるみのつきあいがあり



※この当時、Cさん、Dさん、Eさん、Fさんは今で言う小中学生でした。



Dさんの家族とつきあいのあつた朝鮮半島出身の家族は互いに別れを惜しいんだし

Eさんの話によると終戦後に飛行場を占拠して食料をおさえ近づく人を機関銃でおどす人たちもいたみたいだけど



沿革③工場と倉庫

工場（航空廠）建設

戦争末期になると
本土決戦に備えて
人吉海軍航空隊基地には
地下工場が建設された

1941年10月1日
第21海軍航空廠設置

下部組織として
第21海軍航空廠
鹿屋支廠

1944年9月1日独立
第22海軍航空廠

下部組織として
第22海軍航空廠
人吉分工場

※画像はイメージです

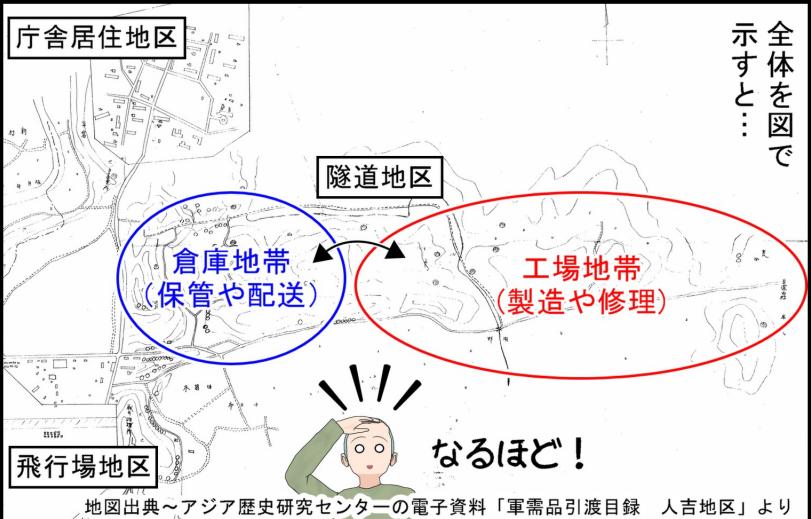
倉庫（軍需部）設置

さらに工場で使う資材や
工場で生産・修理された物品を
保管・配達するため
地下倉庫も設置された
工場と倉庫の関係は
下のようになつていた

※画像はイメージです

1945年7月10日
人吉海軍航空隊解隊
地下工場や地下倉庫は
人吉航空隊基地施設とあわせて
兵站補給施設として
活用されることになる

全体を図で
示すと…



地図出典～アジア歴史研究センターの電子資料「軍需品引渡目録 人吉地区」より

参考～アジア歴史資料センターの電子データ「引渡関係」

- ・ 佐世保軍需部鹿児島支部人吉出張所（出納を担当）
- ・ 第五二一設営隊（基地建設を担当）
- ・ 霧島病院人吉病舎（医療を担当）
- ・ 佐世保経理部鹿児島支部人吉出張所（出納を担当）
- ・ 九州航空隊人吉派遣隊（主に作戦を担当）
- ・ 第二十二航空廠人吉分工場（主に修理を担当）
- ・ 佐世保施設部鹿児島支部出水地方施設事務所人吉出張所（基地建設を担当）
- ・ 佐世保軍需部鹿児島支部人吉出張所（物資の管理を担当）
- ・ 人吉海軍航空隊基地にあつた組織は次のとおり

しかし1945年8月15日
本格稼働をする前に終戦となつた



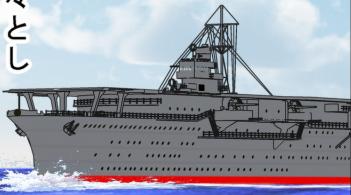
第22 海軍航空廠・人吉分工場長 遊橋辰雄・海軍中佐の物語

終戦と同時に中佐に昇進し
人吉海軍航空隊基地の
終戦処理を任される



軍歴としては
航空母艦に
乗り組んでいたが
胃潰瘍で入院

その後は
地上勤務を転々とし
1945年の初頭
人吉分工場長となつた



人吉分工場は修理を
メイン業務としていた



いつぽうで遊橋中佐は、
工場の機械や資材を活用して
多良木・中球磨農業器具製作所を
中球磨農業会と共同で設立した

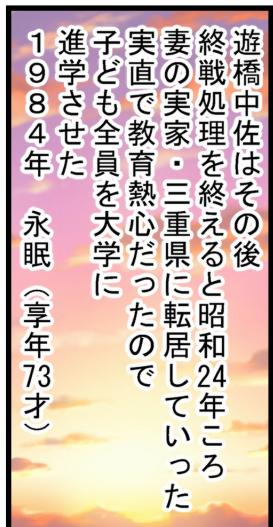
ちなみに人吉球磨に進駐してきた
GHQ（連合軍）の規模は：
11月9日 200名進駐
11月14日 250名進駐
11月27日 時点で総員700名となり
最終的に1200名となる

遊橋中佐は、もともとは物品
を地下壕に埋めて隠していたが、
アメリカ軍人と話してみると、
意外に「いい人」だったので、
すなおに物品を差し出すことに
した。

なんたる
ことだ！

日本の恥では
ないか！

参考～アジア歴史資料センターの電子データ「引渡関係」



設立目的：地域の復興のため
①失業軍人の就職先を確保する
②農村の農器具不足をおぎなう



人吉球磨の軍需工場…岡本工場

人吉海軍航空隊基地の
人吉海軍航空隊基地と飛行場地区の間に
あつたんだよ



岡本工業は愛知県に
1885年に設立された会社で
画期的なことを成し遂げているの
たとえば…



1903年
最初の国産自転車を完成！
1920年
最初の国産飛行機部品を完成！
1933年
最初の国産乗用車を完成！

参考文献～『自転車万歳 ノーリツ88年の歩み』（岡戸武平・中部経済新聞社）

人吉分工場長・遊橋中佐の
息子さんの話によると
人吉海軍航空隊基地の土地は
もともと陸軍のものだつたそ�だよ



参考文献～『郷土・第35号』（求麻郷土研究会・人吉中央出版社）&『高原の予科練』（本田寿男）

もしかすると
岡本工業で生産されたもの
かもしれないけど
詳細は不明なのが



※くまもと戦争遺跡・文化遺産
ネットワークの高谷氏によると
疾風の脚では?とのことです。

2015年、人
吉市内の民家で飛
行機脚が出てきた
んだよ。所有者の兄が戦
後、人吉海軍航空
隊基地跡から持つ
てきたと言つてい
たんだって。



戦時中の岡本工業は
飛行機脚と車輪の最大メーカーで
人吉でも飛行機脚を生産していたの